

Course number		U-LAS70 10001 SJ50				
Course title (and course title in English)	ILASセミナー：ジェンダー論 ILAS Seminar :Gender Studies		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Human and Environmental Studies Professor,ISHIOKA MANABU		
Group	Seminars in Liberal Arts and Sciences		Number of credits	2	Number of weekly time blocks	1
Class style	seminar (Face-to-face course)	Year/semesters	2025・First semester		Quota (Freshman)	12 (12)
Target year	Mainly 1st year students	Eligible students	For all majors		Days and periods	Wed.5
Classroom	Seminar room 22, ILAS Bldg.				Language of instruction	Japanese
Keyword	ジェンダー					
(Students of Faculty of Integrated Human Studies cannot take this course as liberal arts and general education course. Please register the course with your department.)						
[Overview and purpose of the course]						
<p>この授業では、ジェンダーに関する基礎的な知識を獲得し、ジェンダーに関わる諸問題への理解を深めることを目指す。今年度は特に、東大・京大のような「難関大学」におけるジェンダーバイアスの問題を中心に扱う予定である。受講生の調査・報告とそれに基づく討論をメインとする形式で行うことで、報告や討論の技術をみがくことも目標とする。</p>						
[Course objectives]						
<p>ジェンダーに関する幅広い知識を獲得するとともに、ジェンダーに関する諸問題について考察する能力を養う。確かな根拠に基づき、ロジカルに自身の主張を発表し、議論を深めていくための技術を身につける。</p>						
[Course schedule and contents)]						
<p>この授業では、ジェンダーの視点から社会事象をみるとはどういうことなのか、その基本認識の形成に努める。</p> <p>当たり前のことではあるが、ジェンダー論は「教義」ではないので、唯一絶対の正解を頭に叩き込むことがジェンダー論の学習ではない。しかし、世間を見渡すと、そのような捉えられ方をされている側面も否定できず、その反動的あらわれとして「ツイフェミ」などへの反発も目立つようになっている。これらは、いずれもジェンダー論が表面的にしか受け止められていないことの反映であると考えられる。</p> <p>この授業では、こうしたジェンダー論に対する表層的理解からの脱却を図ることを目指す。今年度は特に、受講生にとって身近な存在である「京都大学」の現状について、ジェンダー論的観点から捉え返すことを試みたい。講義・課題図書 of 精読・受講生による調査報告といった方法を組み合わせ、ジェンダー論が何を問題としているのか、その本質的理解を深めていく。</p> <p>第1回：イントロダクション 授業のねらいを説明し、第2回以降の授業の進め方を周知する。</p> <p>第2回：教員による基礎知識の講義 ジェンダー論を考えるうえで最低限必要と思われる基礎知識について担当教員が講義を行う。</p>						
<div style="text-align: right;">Continue to ILASセミナー：ジェンダー論(2)</div>						

ILASセミナー：ジェンダー論(2)
第3～7回：教科書の精読 下記に指定する教科書を輪読していく。各章の内容に関わる疑問点・論点を受講生全員が提出し、それに基づき受講者全員で議論する。このセクションは全5回となる。
第8～14回：受講生による調査・報告 ジェンダーの観点からみた京都大学の現状とその背景について、いくつかのテーマに分かれてグループワークによる調査・報告を行う。身近に存在するジェンダーバイアスが、どのような背景・構造によって生じているのかについて理解を深める。このセクションは全7回となる。
第15回：フィードバック（方法は別途連絡する。）
[Course requirements]
None
[Evaluation methods and policy]
平常点は、授業参加への積極性・主体性を総合して評価する（60％）。また、学期末には授業全体を通しての報告・議論をふまえたレポートを課し、これを評価する（40点）。 成績評点は素点（100点満点）とする。 なお、3分の2以上の出席がなければ、いかなる理由があっても単位を認めない。
[Textbooks]
矢口祐人『なぜ東大は男だらけなのか』（集英社、2024年）ISBN:978-4087213034
[References, etc.]
（References, etc.） Introduced during class
[Study outside of class (preparation and review)]
課題提出や調査・報告については、授業時間外に相応の予習・復習が必要となる。よって、楽に単位を取りたい人にはお勧めしない。
[Other information (office hours, etc.)]